

「在宅避難」という選択肢

災害が起きた時、

「泉小学校に避難所が開設されるから、そこに行かなければ」と思っていませんか？

避難所は、災害で自宅にとどまれない方が一時的に生活をする場所として開設されるものです。

(避難所の受け入れ人数には限界があります)

たとえ災害が起きても自宅で生活することが可能であれば、自宅で生活続ける「在宅避難」が原則です。

在宅避難のメリット

- ① 慣れた環境の下で生活が続けられる。
- ② プライバシーが守られる
- ③ 感染症に対するリスクが低い
- ④ ストレスが少ない
- ④ トラブルや犯罪に巻き込まれにくい

在宅避難のデメリット

- ① 情報が入りにくい
- ② 支援物資の提供を受けにくい
- ③ 不安等を共有できる人がいない



「在宅避難」のための準備

- ① 食料、飲料水の確保
最低3日分の食料、飲料水を確保しておく。(1人1日 水3ℓ×家族の人数)
- ② 電気や水道などのライフラインの代替手段の準備
カセットコンロ、乾電池、生活用水としての水を備蓄しておく。
- ② 非常用トイレの準備
下水道が使えなくなる場合に備え、簡易トイレの備蓄、また自宅トイレを非常用トイレとして使うための新聞紙、ビニール袋、便袋、消臭パッド等の備蓄をしておく。
- ③ 情報収集の準備
ラジオ(電気が来てなくても使えるもの)、防災アプリを予めダウンロードしておく、携帯電話の電源の確保ができるようにしておくことも重要です。

編集後記

「在宅避難」は自分自身や家族に怪我がなく、自宅で安全に生活ができるということが前提です。自分は避難した方がいいのかどうか分からない時、困った時は、とりあえずは第一次避難場所に避難しましょう。

そこでは、ご近所さんと一緒に、考えたり、話したりができるはずです。在宅避難が可能なのか？避難所に行った方がいいのか？災害が起こった時、部長さん、組長さん、防災班員さんがリーダーとなって地域で活動できる体制ができています。

力になってくれる人は、あなたの地域にちゃんといます。